

方面	オピニオンリーダー新規委嘱式	(1面)
1師団	創立記念行事	(2面)
12旅団	林野火災災害派遣	(3面)
1施設団	団戦技競技会	(4面)
混成団	隊内生活体験支援	(5面)



令和8年5月25日 第1096号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

東富士演習場定期整備 総監視察で隊員激励



空自中部航空方面隊の作業小隊長を激励する総監

東部方面総監は4月13日、東富士演習場定期整備担任官（第1施設団長）を視察した。方面隊は演習場等整備推進委員会により、演習場の機能向上に、使用統制部隊と整備部隊との間で、運用ニーズと整備計画の整合を図っており、部隊が望む演練ができるよう着意している。担任部隊である第1施設

団は整備にあたり民生品やICT（情報技術）を活用して効率化・省人化を図るとともに、空自中部航空方面隊との技術交流状況を説明し、総監から賞賛と激励を受けた。また総監は整備部隊を支える整備・補給支援部隊の支援状況を確認し、隊員士気を向上させ、視察を終了した。



法面の整備状況を確認



委嘱状を授与されるオピニオンリーダー



委嘱式終了後の記念撮影

方面隊は4月9日、朝霞駐屯地において令和8年度から東部方面隊オピニオンリーダーとして活動する方に対し、新規委嘱状交付式を実施した。東部方面音楽隊による歓迎の演奏後、厳粛な雰囲気の中行われた式では、推薦広報実施担当官等が陪列する中、参加者は総監から一人一人委嘱状を受け取った。交付後、総監はオピニオンリーダーに対し我々自衛隊のことを知っている

ただため、各種研修等の機会を通じて現場の様子を実際に見ていただき、忌憚のない意見を賜るとともに、自衛隊の真の姿を地域の方々等に発信し普及していただきたくと要望した。

式後の昼食会は終始和やかな雰囲気の中で行われ、各オピニオンリーダーは自己紹介と今後の活動に対する意気込みを話した。会食後オピニオンリーダーは、東部方面隊の活動状況について説明を受け、オピニオンリーダーとして活動するための知識を深めた。

新規オピニオンリーダーに 委嘱状を交付

新たな環境への不安を除去 転入家族オリエンテーション

方面隊は4月11日、陸上自衛隊広報センター（のつくしランド）において令和8年度第1回転入家族オリエンテーションを実施した。本施策は3月及び4月に転入した隊員の家族を対象として、隊員家族の新たな環境への不安の除去及び家族間相互の交流を目的とするものであり、隊員及び隊員家族6



主催者あいさつ



7400人が訪れた朝霞駐屯地



オートバイ（偵察用）の装備品展示

朝霞駐屯地一般開放に7000人超来場

朝霞駐屯地は3月29日、駐屯地を一般開放し、春を彩る約2000本の桜で来場者を出迎え、自衛隊に対する親近感・信頼感の深化を図った。開放日は晴天に恵まれ、暖かな春の陽気に誘われるように駐屯地の桜は満開となり、絶好のロケーションが演出されるなか、およそ7400人の来場者が訪れ、青空に映えた満開の桜を撮影したり、レジャーシートを広げてお弁当を食べたり、思い思いに春の時間を集めた。

訪れた人は「多くの人が訪れ、キッチンカーもたくさんあって大盛況ですね。駐屯地が日頃から地元の方々に愛されている証拠ですね」と笑顔で感想を話した。今回新たに始めた装備品展示では、桜並木のアーチを形作る中央道に展示エリアを設け、オートバイ（偵察用）・軽装甲機動車・16式機動戦闘車を並べて隊員による丁寧な説明を行い来場者の注目を集めた。また、これらの装備品と桜との組み合わせは鮮やかなコントラストで写真撮影の人だかりを作るとともに、子供連れの家族がオートバイに子供を乗せて撮影に興じるなど賑わいを見せていた。陸上自衛隊広報センター「のつくしランド」及び「振武喜記念館」も通常運営していたことから、足を向ける来場者も多く、見どころ豊富な春のイベントとして来場者に思い出される春のひとつを提供することができた。



駐屯地に咲く2000本の桜



人だかりができた16式機動戦闘車

デジタル版あづまのご案内

東部方面隊は今後DX（デジタルトランスフォーメーション）化を進めてまいります。東部方面隊広報紙「あづま」はスマホやパソコンでいつでもどこでも見ることができるデジタル版でご覧になることができますので、是非ご覧ください。



X



instagram



facebook



HP

第1師団

威容を示し地域との信頼深化

第1師団創立64周年 練馬駐屯地創設75周年 記念行事

師団は晴天に恵まれた4月12日、第1師団創立64周年・練馬駐屯地創設75周年記念行事を開催した。当日は、小池東京都知事をはじめ、多数の来賓を招待し、約9000人の来場者が訪れる中、第1師団の精強性と練馬駐屯地の歴史を誇示した。



普通科部隊の一糸乱れぬ観閲行進

式典は多くの来場者が見守る中、陸上自衛隊の中でも高い格式を誇る1師団ならではの厳肅な行進儀しよつて幕を開けた。



祝辞を述べる小池東京都知事



式辞を述べる富崎師団長



MCVやLAVを含む迫力ある訓練展示



自衛隊体験を楽しむ来場者

部隊の威容が整然と示される中、師団長は式辞において「精強な師団として存在することが我々の果たすべき役割である。自分の国は自分で守るとの認識の下、隊員諸官には、平素より厳しい訓練に裏付けされた高い練度を保持し、土気旺盛にして団結強固な精強部隊の育成に努力していただきたい。国民の安らかな生活を守り抜くため、私も皆の先頭に立ち、率先垂範、統率していく」と述べ、来場者の視線が一斉に注がれた。

意図を示した。祝辞において来賓の小池知事は、昨年10月の八丈島風水害における師団の給水、給食、入浴、物資輸送等の災害派遣活動に対し、敬意と謝意を表明した上で、「首都東京を守る第1師団の重要性は、これまで以上に高まっております。東京・日本、安全・安心の確保と持続可能な発展に向けて、共に歩んで行きましよう」と述べ、地域と自衛隊の連携強化への期待を表明した。

進では、各部隊が統制の取れた行進を披露し、部隊の団結力と練度の高さを来場者に強く印象付け、観覧者から大きな拍手が送られた。

その後の訓練展示においては、第1師団の隷下部隊が16式機動戦闘車(MCV)や軽装甲機動車(LAV)を含む各種戦闘力を発揮して、敵を撃破する一連の行動を行い、部隊の高い練度を効果的に発信した。また本行事の各種イベントも好評であり、行事は盛会のように

硫黄島において3月28日、日米合同戦没者追悼慰霊式が厳肅に執り行われた。本式典には師団から第34普通科連隊が参加し、日米両国の象徴である国旗を奉持した。

の惨禍を二度と繰り返さない」との決意のもと、国民の生命と平和な暮らしを守り抜く考えを示した。あわせて日米同盟を「希望の同盟」と強調し、かつて激戦を交えた両国が、現在は固い絆で結ば

れている意義に触れ、恒久平和の実現に向けて歩みを進めて行く姿勢を示した。(要旨)

参加者は静粛な雰囲気での祈りを捧げ、戦没者への敬意と平和への決意を新たにされた。

式典を通じ、日米両国の相互理解と信頼の深化が示されるとともに、その歩みを次世代へ継承していく必要性が感じられる機会となった。



硫黄島で日米両国旗を奉持する旗衛隊



旗衛隊員を激励する小泉防衛大臣

副師団長兼ねて練馬駐屯地司令に着任

陸将補 渡辺 亘紀



生年月日 昭和45年7月18日
出身地 福岡県
学歴等 防衛大学校平成7年3月卒業

主要経歴

- 平成28年3月 北方方面総監部防衛部訓練課長 (札幌)
- 平成30年3月 第12普通科連隊長兼ねて
国分駐屯地司令 (国分)
- 令和2年3月 教育訓練研究本部訓練評価部
共同訓練企画室長 (目黒)
- 令和3年10月 第2師団司令部幕僚長 (旭川)
- 令和4年12月 北方方面総監部防衛部長 (札幌)
- 令和6年12月 東北方面総監部幕僚副長 (仙台)

「さくらまつり」盛況に開催 満開の桜の下で地域と交流深める



家族でお花見を楽しむ

練馬駐屯地は3月28日「さくらまつり」を開催し、約5300人の来場者で賑わった。

本行事は駐屯地の一般開放を通じて来場者にお花見の機会を提供するとともに、地域住民や協力会等との交流を深め、自衛隊に対する理解と信頼の獲得・拡大を図ることを目的として実施した。

当日は駐屯地内の桜も満開となり、来場者は思い思いにお花見を楽しんだ。

会場には複数の出店があり、飲食や買い物を楽しむ家族連れなどで終日にぎわいを見せた。満開の桜並木の下では、来場者同士の談笑や記念撮影の様子が見られ「普段入ることのできない駐屯地でお花見をすることができて良かった」といった声も聞き、和やかな雰囲気に包まれた。

また隊員による案内や来場者との触れ合いを通

じて、駐屯地への理解を深める機会となり、地域との結びつきを一層強固なものとした。

駐屯地は今後も各種行事を通じて、地域との交流を推進し、信頼される存在として一層の関係強化に努めていく。



フォロー募集
師団活動状況
イベント情報
発信しています

第12旅団

春風に舞う桜を前に威風堂々 第12旅団創立25周年 相馬原駐屯地創設67周年 記念行事



観閲式に整然と臨む隷下部隊と駐屯地所在部隊

旅団は4月11日、相馬原駐屯地及び相馬原飛行場において、第12旅団創立25周年及び相馬原駐屯地創設67周年記念行事を挙行した。

記念行事には群馬県知事や国会議員をはじめ地元首長や警備隊区である群馬・栃木・新潟・長野の4県の自衛隊協力団体

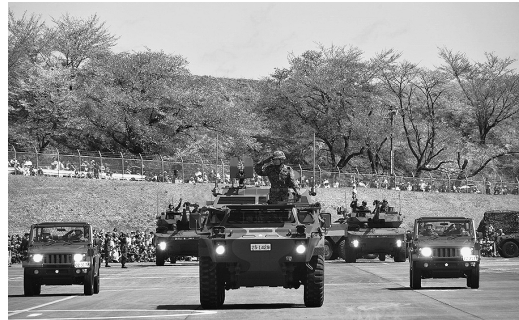
などの来賓のほか、一般来場者を合わせて約1万人が来場した。執行者である旅団長は式辞で安全保障環境が複雑化した国際情勢と、自然災害の激甚化による災害派遣機会の増加を挙げ、厳しい訓練へ全力を尽くして取り組み、対処力を向上させ抑止力とし

ての存在感を高めることを第12旅団の任務として取り組んでいくと述べる。同時に、今後も地域に愛され信頼される部隊であり続けることを誓うとして締めくくった。

記念式典は地域、家族、隊員との信頼をテーマとし、音楽隊と高崎経済大学のアカペラサークルによる国歌斉唱で幕を開け、荘厳な歌声が来場者を魅了した。観閲行進では水路や陸路など進入経路に応じた装備のレンジヤー部隊が来場者の注目を集め、音楽隊の演奏では各県のご当地キャラや松本アルプス太鼓と共演したほか、技術力で魅せたオートバイドリル、方



面特科連隊のFH-70の参加による大迫力の戦闘訓練展示を前に大きな歓声があがった。装備品展示会場では重レッカー車による車両回収や、巨大タイヤの交換作業、浄水システムの稼働などを実際に行



舞い上がる桜を背にした観閲行進



旅団ならではの迫力ある訓練展示



重レッカー車による車両回収の展示

動などを実際に行う動的展示を初めて実施し、日常から縁遠い防衛装備品の性能や隊員の慣れた操作に関心が寄せられた。募集に焦点を当てた企画では大学生サークルと共演した大学生サークルのダンスパフォーマンスや高校生などの募集対象者に向けた企画では、駐屯地見学のツアーを実施し、参加者からは「より身近に感じられた」と好評を得た。

広報ブースでは県内学生的美術作品が来場者を迎え、旅団マスコットキャラクターの「わっしー」が群馬地方協力本部のキャラクター「だるまん」とともに大学生アカペラサークルのライブコーナーに登場すると、周囲の来場者は大きな拍手で迎え、力強い生歌のライブを大いに盛り上げた。

観閲式は午前10時に開始され、駐屯地所在部隊である第12旅団支隊、第12施設隊から人員103人、車両33両が観閲部隊として整然と並び、日々の訓練の成果を披露した。

また駐屯地内では高崎市による「第36回しんまち桜まつり」が同時開催され、地元商工会などが約30店の模擬店が並び、多くの来場者で賑わった。中でも「ガトーフェスタ ハラダ」と新町駐屯地によるコラボ企画のラスク販売には注目が集まり、早期に完売するなど好評を博した。

新町

記念行事に2万5千人 桜まつり高崎市と共催

新町駐屯地は4月4日、駐屯地創設75周年記念行事を挙行政。当日は曇り空となったものの、満開の桜が会場を彩った。

中原駐屯地司令は式辞で「令和8年度は陸上防衛力の抜本的強化を国内外に示す極めて重要な年度であり、第一線の現場を任されている12旅団としても、これまで以上に大きな責任と使命を果たさなければならない。このような情勢のもと、新町駐屯地として本年度もより一層の緊張感をもって隊務の運営に取り組む、何時如何なる任務が与えられよう

と、事態に即応しあらゆる困難を克服して任務を完了できるような、所在各部隊及び隊員が一丸となって融和団結し、各部隊の持つ機能を存分に発揮し、引き

き続き「地域との連携」を図りつつ、さらに充実発展する所存である」と述べた。

その後、第12音楽隊が演奏する中、各部隊に装備された車両が統制の取れた見事な行進を行い、来場者の視線を集めた。続いて行われた訓練展示では、隊員の真剣かつ精悍な表情と迫力ある装備品の動きに大きな拍手が送られ、会場は終始熱気に包まれた。

新町駐屯地と『ハラダのラスク』

東日本大震災でさらなる絆

いまや『ハラダのラスク』といえは群馬県所在部隊の隊員の出張や異動の際に定番の土産として大いに親しまれているが、今回のコラボレーションは15年前に遡る。東日本大震災の当時、新町駐屯地は真向いに所在しているハラダから届けたいが方法

はないか」との相談を受け、地域と共に被災地を元気づけたいと輸送支援に踏み切った。群馬県による義援物資の輸送態勢が整ったラスクは新町駐屯地を通じて被災地へ届けられた。その数は約4万枚に上る。今回の記念行事に合わせて新たに発売されたのはCAMPSHのINMACHIの文字が入ったラスク缶で、このコラボは同社からの提案と、隊員の希望という、地域に根差し



コラボ品購入に並ぶ記念行事来場者

満開の桜のもとと肅々と行われた観閲式

と、事態に即応しあらゆる困難を克服して任務を完了できるような、所在各部隊及び隊員が一丸となって融和団結し、各部隊の持つ機能を存分に発揮し、引きつらぬ。また駐屯地内では高崎市による「第36回しんまち桜まつり」が同時開催され、地元商工会などが約30店の模擬店が並び、多くの来場者で賑わった。中でも「ガトーフェスタ ハラダ」と新町駐屯地によるコラボ企画のラスク販売には注目が集まり、早期に完売するなど好評を博した。

127人が力強く宣誓 各駐屯地で自衛官候補生教育開始



相馬原駐屯地 (第12偵察戦闘大隊)



新発田駐屯地 (第30普通科連隊)

旅団隷下部隊は各駐屯地で新隊員教育隊を編成し、3月下旬から自衛官候補生を受け入れた。着隊当初は緊張の面持ちであった候補生も数日のうちにたくましい顔つきに成長し、前途有望な127人が入隊式に臨んだ。



高田駐屯地 (第2普通科連隊)



松本駐屯地 (第13普通科連隊)

第1施設団

東富士演習場を整備

民生品により効率化及び省人化を推進

施設団は4月8日から17日までの間、東富士演習場において令和8年度春季東富士演習場定期整備を実施した。

本整備は第1施設団長が担任官、第1施設団副団長が整備隊長となり、

第1施設団隷下部隊のほか、23個部隊を指揮下に置き、東富士演習場整備を編成した。

本整備の目的は、演習場の運用及び整備構想に基づき、実戦的かつ実際の訓練環境の構築、作

戦遂行能力向上への寄与及び周辺住民の安全確保により、良好な作戦環境を醸成することにある。

本整備では前回の東富士演習場定期整備に引き続き、航空自衛隊中部航空施設隊との技術交流を実施し、施設技術の向上及び連携強化を図った。

整備隊長（副団長）は本整備にあたり「東富士演習場の進化」「施設技術能力の向上」「前進から帰隊までの安全管理」の3点を要望して、東富士演習場の整備において機能維持・向上に寄与するとともに、整備隊は要望事項を具現化し、令和8年度春季東富士演習場定期整備の任務を完了した。

今回の整備においても多くの民生品を活用し、盤や路肩等の整備において大きな進化を遂げた。

活用した民生品には、砕石等を装填することで土留め等に使用できる「かか丸くん」、地盤を強化して泥濘化を防止する「D・Box」「ストロン

グクリット」、ヘリ離陸地域には土壌を安定させるため、整備終了後「クローバー」の種を蒔くことで恒久化を図った。ほかにも多くの民生品を積極的に使用して、演習場の機能維持・向上に寄与した。

団最優先上級曹長が指揮を執る施設技術指導班が隊員に直接指導を実施し、杭の打ち方や土のう

の設置要領等、施設技術能力の向上・普及に寄与した。

また任意に設定した角度で容易に法面を整形でき、省人化及び作業効率を大幅に向上させる「マシンガイダンス」及び1人での測量が可能となる「受信機搭載測量器材（CLAS）」の操作要領等に習熟し、ICTの促進を図った。

本整備においては安全要員が現場において、安全確認の注意喚起等を実施するほか、施設技術指導班による機会教育や巡回指導が実施され、事故等防止に繋がった。

14日には総監の視察を受け、状況報告において整備隊長より、整備前・後の状況を写真やタイムラプスを活用した映像等で紹介するとともに、施設技術指導班による施設基礎作業の指導状況等を報告した。また現地視察においては各地区整備指揮官より、各地区のICT

及び民生品の活用状況、整備上の留意事項について説明を受けた。

施設団は引き続き演習場の運用及び整備構想に基き、各部隊の要望に基き、個人発表及びび討議を実施した。

団長訓話においては、第1施設団がいかなる状況においても、あらゆる任務に即動・持続・完遂できる「強靱な施設団」を創造するため、引き続き及び人材育成の重要性について再度強調した。特に人材育成については、サービスと一体となった各級指揮官による感化・善導により帰属意識を高めるとともに、第1施設団生え抜きの各種要員を継続的に育成する必要があると、各級指揮官は基本教育と職務を通じた実践教育（とうや）を連携させ、自ら人材育成に取り



マシンガイダンスによる法面の整形



民生品を活用した崩落箇所の改修



民生品（D・Box）を実視する総監（中央）



中隊長等集合教育を実施 団長の企図を明示

施設団は4月2日から3日までの2日間、古河駐屯地において令和8年度中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は団長の企図の徹底を図るとともに、直接隊員を指導する中隊長等としての任務の重要性を理解させる

施設団は4月2日から3日までの2日間、古河駐屯地において令和8年度中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は団長の企図の徹底を図るとともに、直接隊員を指導する中隊長等としての任務の重要性を理解させる

施設団は4月2日から3日までの2日間、古河駐屯地において令和8年度中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は団長の企図の徹底を図るとともに、直接隊員を指導する中隊長等としての任務の重要性を理解させる



桜一般開放を初開催 地域とともに

施設団は4月4日、古河駐屯地において駐屯地桜一般開放を初開催した。

本イベントは地域住民等に駐屯地を開放し、装備品等の展示を通じて駐屯地桜一般開放は、午前9時30分から午後3時30分まで実施され、満開の桜を楽しんでいた。あわせて桜並木周辺では古河駐屯地の主力装備である92式浮橋、03式中距離地对空誘導弾（SAM）、油圧シヨベル、偵察用オートバイ等を展示し、来場者が撮影を楽しむ様子が見られた。また茨城地方協力本部による陸海空自衛隊の迷彩服試着体験も実施され、迷彩服を着てオートバイに乗り、ハンドルを握りしめて楽しむ地域住民で人気を博した。

初開催となった本イベントは、正午過ぎからあいにくの雨空となったものの、500人を超える多くの地域住民が駐屯地に足を運んだ。普段は立ち入ることのできない駐屯地の桜を楽しむとともに、地域住民と自衛官が交流する和やかな一日となった。

“Send the SITREP to higher headquarters.”

（上級司令部へ状況報告を送ってください）
会議や無線でも非常によく耳にする言葉です。

最後はこちら
【ROE】
Rules of Engagement（交戦規則）
部隊がどのような条件で行動できるかを示す重要なルールです。

皆さん、こんにちは。チャド・ウィリアム少佐です。今月は「合同指揮所訓練で飛び交う“略語”を知ろう！」

いよいよ日米合同指揮所訓練「YS」が始まります。共同訓練では、英語そのもの以上に「アクロニウム（Acronym）」や「アブリビエーション（Abbreviation）」、つまり略語を耳にする機会が多くあります。

米軍では短時間で正確に情報を共有するため、多くの略語が日常的に使われています。最初は難しく感じるかもしれませんが、意味が分かると会議やブリーフィングの理解が一気に深まります。今回は合同指揮所訓練でよく使われる代表的な略語を紹介します。

【SITREP】
Situation Report（状況報告）
部隊の状況や活動状況を報告する際によく使われます。

次に
【RFI】
Request for Information（情報要求）
必要な情報を求める際に使用します。

“We submitted an RFI.”
（情報要求を提出しました）
情報共有が重要な演習では欠かせない表現です。

続いては
【FRAGO】
Fragmentary Order（個別命令）
作戦命令を一部修正・追加する際に使用する命令です。

“A new FRAGO has been issued.”
（新しい個別命令が発令されました）
状況が変化しやすい演習では重要な言葉です。

（交戦規則を確認してください）
日米間で共通認識を持つためにも重要な用語です。

最初は略語ばかりで戸惑うかもしれませんが、よく使うものを少しずつ覚えることで、共同訓練でのコミュニケーションは確実にスムーズになります。

大切なのは、「完璧を目指すより、まず使ってみる」ことです。
最後に今月のフレーズです。

“Communication is the key to teamwork.”
（コミュニケーションはチームワークの鍵です）
それでは、また次回お会いしましょう。

東部方面混成団

新隊員教育開始 宣誓に込めた己の道

混成団は令和8年度の
新隊員教育を女性自衛官
教育隊(女教隊)及び第
117教育大隊において
開始した。



声高らかに宣誓文を読み上げる新隊員



凛とした姿で敬礼を行う新隊員

地においてそれぞれ第26
期一般陸曹候補生及び第
30期自衛官候補生の入隊
式を挙行政した。

女教隊では春の訪れを
感じさせる晴天の下、式
に臨む新隊員は同期や班
長達との記念撮影、服装
の点検などを行いつなが
緊張をほぐしている様子
が見受けられた。
入隊式が終わると、家族
との懇談の時間では安堵
して涙を流す隊員や家族
とのしばしの別れを惜し
む隊員の姿がみられ、思
い思いの時間を家族と過
ごしていた。娘の制服姿
をみた家族は「こんなに
も凛と立派になって、親
としての不安な気持ちか
吹き飛びました。同期の



晴れ姿と満面の笑みで記念撮影を行う新隊員

子とむすでに仲がよく、
今後始まる訓練に一緒に
切磋琢磨して頑張ってい
たい」と自衛隊員として
背筋を伸ばした娘にエー
ルを送った。

117教育大隊では雨
天での入隊式であったが
式に臨む新隊員は雨をも
のともせず、整齊とした
行進により入隊式の会場
に歩みを進めた。

音楽隊の演奏に合わせ
て新隊員の入場が始まる
と式に参列した家族は我
が子の晴れ姿を記録する
為、一斉に写真や映像を
撮りはじめることも、
その堂々とした姿と統制
された行動の迫力に会場
からは驚きの声も漏れて
いた。
新隊員は同期の絆を強
固にしなが、約3ヶ月
にわたる教育により、自
衛官としての基礎を学ん
でいく。



海上自衛隊の兄と陸上自衛隊に入隊した新隊員

横浜で自衛隊アピール

ザよこはまパレードに参加

第31普通科連隊は5月
3日、横浜開港記念みな
と祭(よこはまパレード
(国際仮装行列)に防衛
省自衛隊として参加し
た。

同パレードは昭和28年
から続く伝統的なイベン
トでよこはま地域の活
性を目的に行われてい
る。
防衛省自衛隊としての
パレード行進は、防衛大
学校儀仗隊及びドラム隊
の軽快なドラムマーチと
洗礼されたドリル行進に
より先導され、第31普通
科連隊長が自ら軽装甲機
動車から観客に手を振り
声をかけるなど、「海」の
アピールを存分に行っ
た。



防大儀仗隊に先導される31普連隊長とはまにゃん

軽装甲機動車に続け
て、神奈川県地方協力本部
からは広報キャラクター
「はまにゃん」が応援に
駆け付け、連隊長に続き
て、神奈川県東分団の災害
派遣等を担当している31
普連は、今後も地域密着
型かつ「海」の街、横浜
横須賀を「陸」から守る
ため、日々の訓練に邁進
していく。

高機動車から観客に手を
振るなど、自衛隊のアピ
ールに尽力した。

総監部人事部募集課 募集ニュース

令和8年度第1回特技「募集」集合教育及び 地方協力本部新着任幹部集合訓練(募集)

らも方面総監部募集課
長、地方協力本部募集課
長及び広報官等計12人が
教育研修のため参加し
た。
まず一日目は、優秀広
報官による「募集基礎」
から始まり、活動の目的・
要領・必要な考え方・実
施要領について教育し
た。次に情報取得から入
隊までの目標管理手順及
び自衛隊の魅力の伝え方
について教育したとこ
ろ、積極的に疑問点の解
消などに努めている参加
者の姿が多く見られた。
2日目は、部外講師に
よる「傾聴技法及びビジ
ネスマナー」の教育を実
施し、広報官活動の第一
歩となる知識と技能を学
習した。

4月6日から8日まで
の間、朝霞駐屯地におい
て令和8年度第1回特技
「募集」集合教育及び地
方協力本部新着任幹部集
合訓練(募集)を実施し
た。
東方管内の各地本か
ら、新着任の事務所長及
び広報官等約100人が
参加し、また他方面隊か
らも方面総監部募集課
長、地方協力本部募集課
長及び広報官等計12人が
教育研修のため参加し
た。
まず一日目は、優秀広
報官による「募集基礎」
から始まり、活動の目的・
要領・必要な考え方・実
施要領について教育し
た。次に情報取得から入
隊までの目標管理手順及
び自衛隊の魅力の伝え方
について教育したとこ
ろ、積極的に疑問点の解
消などに努めている参加
者の姿が多く見られた。
2日目は、部外講師に
よる「傾聴技法及びビジ
ネスマナー」の教育を実
施し、広報官活動の第一
歩となる知識と技能を学
習した。

最終日には新着任事務
所長等を対象に、チーム
ワーク教育について部外
講師による研修を実施し
た。適性(才能)検査を
活用し、それぞれの性格・
能力を見て所員の能力を
最大限に発揮させること
で、募集事務所内のチー
ム力を向上させる戦略的
な運営法は、今後の所長
業務に大いに参考となる
ものであった。

一方、新着任広報官は、
実際に各地本から選抜さ
れた優秀広報官が募集対
象者役となり、ケース別
にロールプレイ方式によ
る総合演習を実践的に取
り組んだ。

優秀広報官の的確なア
ドバイス等により「不安
が払拭された」との声も
聞かれた。
本教育締めくくりの人
事部長説示では「教育は
本日で行われただけでなく、
ここから本場のスター
トである。これから接す
る相手は自衛官ではな
い、自分の中にある常識
が通用するのか、一度原
点に立ち返り、これまで
以上に心に制服を。本教
育で得た知識と経験を確
実に生かし、各配置先
において任務を遂行し、結
果で応えることを強く期
待する」と教育参加者全
員を激励し、現場へ送り
出した。

教育参加者は募集業務
が募集対象者の人生に関
わる重要な任務であるこ
とを自覚し、一人でも多
くの志願者の獲得につな
げられるよう使命感を持
って職務に邁進してい
く。

実際に傾聴技法を取り
入れた対面式話法の実践
により、会話から相手の
特徴や思考の傾向などを
聞き取り、相手のニーズ
にあった答えを準備しな
がら次の接点を確実に獲
り組んだ。



優秀広報官による広報官教育



部外講師による
ビジネスマナー等の教育



ロールプレイ方式での対面式実習

東部方面混成団
公式Xはこちら!
陸上自衛隊【東部方面混成団】公式
@EACB_takeyama
たくさんのフォロー
お待ちしております!

東混団・31普連
インスタ始めました!
フォローお待ちしております!

31普連 48普連 東混団 31普連

シ通群

談結（だんけつ）をテーマに 群創隊43周年記念行事を挙



東部方面システム通信群長の挨拶



東部方面システム通信群は4月18日、朝霞駐屯地において群創隊43周年記念会食をシステム通信群OB会と共催で開催した。

本会食は「談結（だんけつ）（造語）（関連企業・団体、群OB会、システム通信群がくつろいで話し、協力関係及び結束の基盤を構築する）」をテーマとして、朝霞駐屯地の隊員のほか、東管内に分散している3個中隊、31個派遣隊が「中隊長・派遣隊長挨拶映像」で会場に登場し、群の一体感を醸成した。また令和7年度に、部内外で活躍した隊員を紹介する「令和7年度活躍隊員紹介」のほか、「令和7年度群活動状況」のダイジェスト映像を放映し、不撓不屈の精神を継承している隊員の姿を紹介した。現役世代の活躍状況をOBらと共有し、当時の苦労話や「変わらない志」を語るほか、我々を取り巻く環境の変化や最新のデジタル技術について、自衛隊とOB、企業の垣根を越えて語り合い、時代が変わっても変わらない国防の精神を継承していることを称え合った。

群は感謝の気持ちを忘れず、諸先輩が築いてきた伝統を継承するとともに、変化に適応し任務を完遂するため、引き続き任務に邁進していく。

後支隊

観桜会を開催 招待者との親睦深める



桜に囲まれた会食会場



多くの子供で賑わったヨーヨー釣り

東部方面後方支援隊は朝霞駐屯地内において春の恒例行事である「観桜会」を開催した。本行事では日頃から部隊及び隊員を支える隊員家族や後援会、そして後方支援隊の伝統を築いてきたOBに対し、感謝の意を表するとともに、隊の活動に対して理解の促進を図ることを目的に開催した。

行事は部隊に多大な貢献のあった方に対する感謝状贈呈式から始まり、後方支援隊長より日頃の献身的な活動に対する深い謝意が伝えられた。続いて行われた隊員家族への説明会では、隊員の任務内容や家族支援制度について説明し、隊員家族の理解の促進及び安心感の醸成を図るとともに信頼関係をより強固なものとした。

会食会場では香ばしい匂いを漂わせる焼き鳥や、フランクフルト、ポテトやナゲットに加え、子供たちに人気の綿あめや、ヨーヨー釣りも用意され、会場の至るところまで賑やかな声が響き渡った。さらに装備品展示では小型トラックが展示され、特に子供たちが隊員の補助を受け運転席に座るなど自衛隊の装備品を肌で感じる貴重な体験を楽しんでいた。

引き続き東部方面後方支援隊は、地域や家族、そして後援会並びにOBとの絆を深め、今後も隊一丸となって任務に邁進する。

会計隊

方面隊訓練検閲を受閲 隊本部が野外展開し任務完遂



作戦会議（隊本部野外指揮所）



駐屯地警備（立川会計隊）



現金警護（滝ヶ原会計隊）

東部方面会計隊は方面隊訓練検閲を受閲し、2月26日から3月1日にかけて、3夜4日の連続状況下において有事における会計支援について検閲された。方面会計隊長 加藤 1佐は受閲にあたり「対象年度を意識し状況を理解せよ」「会計支援を執念を持って実施せよ」「安全管理を徹底せよ」の3点に要事項に掲げ、隊員は隊容検査等を通じ、指揮官意図を十分に体して検閲に臨んだ。

当初、同時に受閲していた第2高射特科群に直

接支援班を同行支援させた他は、平素同様、各駐屯地において会計支援を実施していたが、事態推移に伴い、司令部機能である隊本部が習志野演習場に夜間進入し、方面通信群の支援を得て野外に指揮・幕僚機能を確立した。じ後は、野外に展開した隊本部の指揮・統制

の間を、方面会計隊一丸となって乗り切った。検閲官（行政副長）からは、検閲官要望事項「作戦・戦闘部隊の要求に的確かつ即応する活動」を実践し、部隊一丸となり任務に邁進していることを確認したとの講評を受けた。特に至近距離射撃の合格率は、練成の成果を得て、方面直轄部隊平均を大きく上回るものであった。今回の検閲で任務完遂し得たことは、会計科隊員として大きな自信を得るとともに、部隊の団結・士気高揚の一助となったものと考えられる。

方面会計隊は本検閲を弾みとし、引き続き、東部方面隊の一員として部隊本位の会計支援に邁進していく。

東音

心に響く演奏会 地域の人々との懸け橋に



【室内楽演奏会】東部方面音楽隊は3月4日、彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールにおいて、第46回室内楽演奏会を開催した。

室内楽演奏会は普段の吹奏楽編成（30〜50人程度）とは異なり2〜10人の奏者によって演奏され、各人の高度な技術や表現力が求められる。今回出演した組は昨年12月に実施された選考会を通り、8組



体育館さよなら演奏会

で、本公演に向けて外部講師のレッスンを受講する等、演奏に磨きをかけてきた。

演奏会当日は平日の夜にもかかわらず多くの聴衆が訪れ、奏者たちの気持ちのこもった熱演に聴衆からは惜しみない拍手が送られた。多くの来場者の方が「感動した」と言って会場を後にするのを見て、隊員たちも感謝の気持ちでいっぱいになった。

【体育館さよなら演奏会】3月9日、朝霞駐屯地からほど近い新座市立大和田小学校において「体育館さよなら演奏会」を開催した。本演奏会は校長先生の発案により、来年度取り壊される体育館への感謝の気持ちを込めて企画された。

演奏会当日は小学校の児童、家族、職員等約700人に対し、おなじみのクラシックやJ・POPなどに加え、小学校の校歌を演奏した。音楽隊の演奏に合わせ、元気に校歌を歌う子供たちの姿に演奏する隊員たちも胸が熱くなった。

今後も音楽隊は地域の人々との懸け橋となるよう活動を続けていく。

茨城地本 新たな発信拠点が始動

日立出張所リニューアルオープン

自衛隊茨城地方協力本部日立出張所は3月17日、出張所が入るビルの一階部分の広報紙をラリースペースとしてリニューアルオープンし、オープニングセレモニーを実施した。

当日は自衛隊茨城地方協力本部長をはじめ関係者が多数出席し、施設の利用が促進されることを期待された。



関係者に見守られる中行われたテープカット

ある！ある！自衛隊

byともえ



ユーザー第1号となった。施設を利用した学生からは「自衛隊の施設とは思えない」「静かで集中できる」といった声がかかれ、地域に開かれた空間として高い評価を得た。

同出張所は今後、誰もが気軽に立ち寄れる拠点として機能させるとともに、地域との交流を深めながら自衛隊の理解促進と魅力発信を一層推進していく。

栃木地本 中学校で防災教育を実施

命を守る力を現場で体得



心肺蘇生法の展示を熱心に学ぶ教職員

自衛隊栃木地方協力本部大田原募集案内所は4月3日、那須塩原市立日新中学校において防災教育を実施した。

当日は教職員を対象に、心肺蘇生法やAEDの使用法について実技指導を実施した。

通学路や校舎内等で倒れている人を発見したという想定で行った訓練では、胸骨圧迫心臓マッサージや声掛け、救急者の依頼、AEDの装着といった役割分担など一連の流れを確認しながら、実践的に学んだ。

参加者は真剣な表情で訓練に取り組み、緊急時における迅速な対応の重要性を体感した。

同案内所は「教育現場における初動対応の重要性を共有できた」としており、今後も地域と連携し、防災意識の向上と安全確保に寄与していく。

群馬地本 コラボに会場熱狂

ルミナスと連携し体験型広報

自衛隊群馬地方協力本部太田出張所は4月4日、イオンモール太田において開催された「ササパ群馬ルミナスエンジョイホ



ルミナス選手とコラボイベントの盛況を祝して記念撮影

当日は小雨が降るあいにくの天候であったが、会場が屋内のピクニックコートであったことから多くの来場者が訪れ、ミニサッカーコーナーや自衛隊の体力測定コーナーは終始活気に包まれた。

中でも、ルミナスの選手が体力測定に挑戦し、腕立て伏せ44回、腹筋78回を記録すると、会場からは驚きと称賛の声が上がり、大きな盛り上がりを見せた。

体験した選手は「姿勢や手の位置が厳格で想像以上にきつかった。自分も負けないよう頑張りたい」と語り、来場者に強い印象を与えた。

同出張所は今後も地域スポーツチームとの連携を強化し、体験型イベントを通じて自衛隊の魅力発信と募集広報活動の充実に努めていく。

神奈川地本 体験で広がる理解

感謝祭で自衛隊の魅力発信

自衛隊神奈川地方協力本部小田原地域事務所は4月12日、小田原ドライブインスクールで開催された「第11回感謝祭」に参加し、広報活動を実施した。

会場では1/2トトラックを展示し、車両の特徴や任務内容を分かりやすく説明した。普段目にする機会が少ない自衛隊車両に、多くの来場者が足を止め、記念撮影を楽しみ姿が見られた。



迷彩服を試着して記念撮影

また広報ブースでは、子ども向けの迷彩服試着体験や戦闘ブーツの重量当てクイズを行い、参加者からは「これを背負って任務を行うのか」といった驚きの歓声が上がっており、会場は終始にぎわいを見せた。

同事務所は今後も地域との連携を一層強化し、各種イベントを通じた理解促進と募集広報の充実に努めていく。

静岡地本 体験型広報を展開

9300人が来場



自衛隊静岡地方協力本部は3月21日、富士山樹空の森まつりにおいて広報活動を実施した。

当日は天候にも恵まれ親子連れを中心に約9300人が来場した。会場では高機動車の体験試乗や炊き出し、音楽演奏など多彩なイベントが行われ終日賑わいを見せた。

特に多用途ヘリコプターUH-1J、16式機動戦闘車や装甲車AMVの展示には多くの来場者が集まり、ヘリや車両の前で記念撮影を行う姿や隊員に熱心に質問する様子が見られた。(写真)

広報ブースでは装備や任務の紹介に加え、グッズ配布や施設見学も行われ、来場者は自衛隊の活動や任務について理解を深めた。

同本部は今後も体験型イベントを通じ、地域とのつながりを強化していく。

訓練所感

私は2月26日から3月1日の間で実施された、令和7年度第4次東部方面後方支援隊訓練検閲に第301高射直接支援中隊第3直接支援小隊のSAMレーダー整備陸曹として約2年間勤務してきました。この勤務で得た経験や知識を



発揮したいという強い思いをもって、検閲には臨みました。

私の整備するSAMレーダー装置は高周波のレーダーにより敵航空機や敵ミサイルを探知し、収集した情報を射撃統制装置に送信し、対空戦闘を行う器材です。

本訓練検閲ではSAMレーダー装置の故障により、局地的に対空戦闘が不能となり、第2高射特科群の任務遂行が困難な状況になる中、迅速な初期検査、故障部品の見直し、関係所掌との調整及び第104全般支援大隊による部品交付の支援もあり、故障を早期復旧することができました。

最後にこれまでご指導いただいた上司並びに先輩方、一緒に整備してくる後輩、そして、整備員として信頼してくれている第306高射中隊の皆様のおかげで今の自分があります。

日々感謝の気持ちを忘れずにこれからも業務に邁進して参ります。

最先任 上級曹長

「協働・優しさ・完遂」 第30普通科連隊 小島 章雅 准陸尉

令和7年8月から、第8代第30普通科連隊最先任上級曹長を拝命した小島准尉です。

30普通連は、かつて城下町、軍都と呼ばれた新潟県北部にある新発田市に



駐屯しており、30普通連隊員は「菖城魂（しやうじょうこん）ようだましい」という決意をあらわす、粘り強く、ひたむきに前へ進み続ける」という伝統的な雪国気質をモットー

に、日々の隊務に励んでいきます。私が最先任上級曹長に上番するにあたり「協働・優しさ・完遂」の3

点を心得・要望事項に掲げました。そして、それぞれの隊員が持っている「菖城魂」を、隊員相互に連携し合って、更に高めてもらいたいという思いがあります。それぞれの隊員が立場を認め合い、協力し合っ

同じ任務・目標に向かい（「協働」）、困難な状況下においても相手に対する思いやりの気持ち（「優しさ」）を忘れずに、物事を最後まで完全にやり遂げる（「完遂」）という部隊の雰囲気作りが、隊員同士の強固な信頼（和）の構築を重視して、30普通連曹士の隊員と共に進んでいきたいです。連隊長要望事項「健全であれ」を具現できるように、隊員同士の強固な信頼（和）の構築を重視して、30普通連曹士の隊員と共に進んでいきたいです。将来、来るかもしれない各種任務を完遂するために。

文武両道

第306施設隊 三浦 桃子 3等陸曹



今月のフェアレディは、第306施設隊（松本）の三浦3曹です。三浦3曹は神奈川県大和市

出身の32歳で隊本部総務班に勤務しています。Q 何年入隊ですか？ また入隊の理由は何ですか？

平成30年入隊の8年目です。高校から大学まで少林寺拳法部に在籍していて、環境的に近いものを感じたためです。Q 普段の業務内容と業務の魅力は？

隊本部総務班庶務陸曹として勤務しており、普段は援護業務や文書陸曹の補佐を兼ねて勤務しています。2月には中級文書を取得することができ、勤務の糧となっています。魅力としては今まででいた現場だけでは見えなかった部隊の違う面が見え、訓練している隊員たちを支える立場として、部隊に貢献することができるところです。Q 任務において心掛けていることは？

現場の隊員第一です。隊本部として勤務しているため、現場の隊員一人一人が訓練に支障はないか、私にサポートできることはないかと常に探求しています。Q これまでで最も思い出深い訓練は？

ライナープレートによる掩壕構築（人や物を爆撃や銃弾等から守るための防御施設）の訓練は思い出深いです。天気が悪く厳しい状況で、気持ちが折れたら負けだと思いき、誰よりも元気に声を出して臨んでいたつもりです。つらいこともありましたが自分の限界を超えていく感覚がとても印象的でした。Q 趣味は？ また趣味となったきっかけは？

狩猟です。長野県は狩猟する環境が良く、異動してきた時から免許を取ると決めていました。同じ部隊に狩猟をする先輩が2人いるので、一緒に山に入っていくのが楽し

きつかけは？

東方男児

「空地一体」 東部方面ヘリコプター隊 小保 俊稀 2等陸曹

今月の東方男児は東部方面ヘリコプター隊第1飛行隊に所属する、神奈川県出身小保2曹です。Q 自衛隊に入隊した

きっかけは？

災害時におけるヘリコプターによる人命救助や山林火災の消火活動に感銘を受け、自衛隊を志しました。厳しい状況下でも迅速に行動し、人々の命と生活を守る任務に携わりたいと考えたことがきっかけです。Q 普段の業務内容と心掛けていることは？

航空機整備陸曹（UH-2、UH-1J）としての航空機整備及び各種任務に加え、部隊格闘指

導官として隊員の技術向上に努めています。心掛けていることは、基本基礎の徹底であり、日々の業務や訓練において確実な作業と安全の確保を最優先としています。あわせて、自身の技術の向上にも継続的に取り組み、より高い練度を維持・向上させることを意識しています。

Q 趣味は？

野球観戦、マウンテンバイク、ツーリングです。

Q 今後の自衛官としての目標は？

航空機整備陸曹としての知識・技術をさらに向上させ、いかなる状況においても安全かつ確実に任務を遂行できる隊員になることです。また、災害派遣においてもヘリコプターが最大限の機能を発揮できるよう、整備面から確実に支え、人命救助や消火活動に貢献できるよう努めていきます。

最後に一言



予備自衛官とは異なり、特定の部隊に所属することで帰属意識を涵養させ常即一体となって訓練を行い、絆を深めていくことにやりがいを感じています。一般の部隊では普段民間と交わる機会というのには非常に少ないのが現状だと認識しています。その中で、常備自衛官、即応予備自衛官で構成されるコア部隊では多種多様な業務、生活をしている隊員同士が集まり、偏りがちな考えや視点に柔軟さを与えているように思います。

編集後記

通勤時間を私は長くただの移動時間だと思っていた。陸上幕僚監部勤務を命ぜられ、人生で初めての電車通勤は片道1時間。最初の頃はスマホを見ながらゲームをしたりニュースを流し読みしたりして、何となく時間を消費するだけだった。そんなある日、毎日同じ時間に乗る学生の姿が目に入った。その学生は静かに参考書を開き、真剣に勉強していた。何気ない光景だったが、不思議と胸に残り、「このままではいけない」と強く感じた瞬間だった。読書が好きだったわけでもない。むしろ苦手で、読書がなかった。それでも、何かを変えたくて一冊の本を手にとってみた。すると、少しずつ文字の世界に引き込まれ、気づけば読むことが楽しくなっていた。夢中でページをめくり、はっと気がついたときには、降りるはずの駅を過ぎていた。あの驚きと同時に通勤時間の見え方が一変した。今では通勤時間は自分を磨くための大切な時間だと思っている。限られた毎日だからこそ、使い方を換えれば大きな意味を持つのだと、私はこの経験から学びました。